

## 安全データシート

作成日 2022 年 8 月 11 日

## 1. 製品及び会社情報

製品名	: グアイアコール検出キット
製品コード	: 08920
会社名	: 極東製薬工業株式会社
住所	: 東京都中央区日本橋小舟町 7 番 8 号
担当部門	: 営業学術部
電話番号	: 03-5645-5664
FAX 番号	: 03-5645-5703
緊急連絡電話番号	: 03-5645-5664
推奨用途及び 使用上の制限	: 耐熱性好酸性菌鑑別用キット

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類は、「3. 組成及び成分情報」、「9. 物理的及び化学的性質」、「11. 有害性情報」及び「12. 環境影響情報」に基づく。

## 【試液 2】

## GHS 分類

物理化学的危険性	: 区分に該当しない又は分類できない
健康に対する有害性	
・急性毒性(経口)	: 区分に該当しない
・急性毒性(経皮)	: 区分に該当しない
・急性毒性(吸入 気体)	: 区分に該当しない
・急性毒性(吸入 蒸気)	: 分類できない
・急性毒性(吸入 粉塵/ミスト)	: 区分に該当しない
・皮膚腐食性/刺激性	: 区分 2
・眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分 2A
・呼吸器感作性	: 分類できない
・皮膚感作性	: 分類できない
・生殖細胞変異原性	: 分類できない
・発がん性	: 区分 2
・生殖毒性	: 分類できない
・特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分 2(呼吸器)
・特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分 2(呼吸器)
・誤えん有害性	: 分類できない
環境に対する有害性	
・水生環境有害性(急性)	: 区分 3
・水生環境有害性(長期間)	: 区分に該当しない
・オゾン層への有害性	: 分類できない

## GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	:	警告
危険有害性情報	:	・皮膚刺激 ・強い眼刺激 ・発がんのおそれの疑い ・呼吸器の障害のおそれ ・長期にわたる、または反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ ・水生生物に有害
注意書き	[安全対策] :	・使用前に取扱説明書を入手すること。 ・粉塵/ミスト/蒸気を吸入しないこと。 ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 ・環境への放出を避けること。 ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡を着用すること。
	[応急措置] :	・皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。 ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを装着している場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ・以下のような時には、医師の診察/手当てを受けること。 ばく露またはばく露の懸念のある場合。皮膚刺激が生じた場合。眼の刺激が続く場合。気分が悪い時。 ・汚染された衣類を脱ぎ、再度使用する場合には洗濯すること。
	[保管] :	なし
	[廃棄] :	・内容物及び容器を認可された廃棄物処理施設に廃棄すること。

## 【試液1、試液3、陽性コントロール】

## GHS 分類

物理化学的危険性	:	区分に該当しない又は分類できない
健康に対する有害性	:	区分に該当しない又は分類できない
環境に対する有害性	:	分類できない

## GHS ラベル要素

絵表示	:	なし
注意喚起語	:	該当しない
危険有害性情報	:	該当しない
注意書き	:	なし

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	:	混合物
化学名又は一般名	:	データなし

## 【試液2】

成分	化学特性 (化学式等)	CAS No.	濃度又は濃度範囲 (含有量)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
過酸化水素 (1)	H <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	7722-84-1	1.3%	データなし

## 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 該当しない。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水で石鹼を用いて洗う。皮膚刺激を生じた場合は医師の診察/手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを装着して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は医師の診察/手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 医師の診察/手当てを受ける。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末消火剤、水、炭酸ガス、砂等
- 使ってはならない消火剤 : データなし
- 火災時の特有の危険有害性 : 消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したりしないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は、ウエス、雑巾等で拭き取る又は大量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 特になし
- 局所排気・全体換気 : 局所換気装置を使用すること。
- 注意事項 : 本品は転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 安全取扱注意事項 : 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護具を着用する。
- 保管
- 技術的対策 : 特になし
- 安全な保管条件 : 容器は密栓し、光を避け2～10℃で保管する。
- 混触禁止物質 : データなし
- 安全な容器包装材料 : ポリ塩化ビニル、ポリエチレン、ポリプロピレン

---

**8. ばく露防止及び保護措置**

設備対策	:	取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備を設置する。
許容濃度	ACGIH; (1):	TLV-TWA 1ppm
保護具		
呼吸用保護具	:	保護マスク
手の保護具	:	保護手袋
眼の保護具	:	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	:	保護衣、保護長靴

---

**9. 物理的及び化学的性質**

物理状態	:	液体
色	:	試液 1、試液 2、陽性コントロール : 無色 試液 3 : 茶色
臭い	:	試液 1、試液 2、試液 3 : データなし 陽性コントロール : 特異臭
融点/凝固点	:	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	:	データなし
可燃性	:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	:	データなし
引火点	:	データなし
自然発火点	:	データなし
分解温度	:	データなし
pH	:	試液1:3.5、試液2:データなし、試液3:6.8、 陽性コントロール:データなし
動粘性率	:	データなし
溶解度	:	データなし
n-オクタノール/水分配係数	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び/又は相対密度	:	データなし
相対ガス密度	:	データなし
粒子特性	:	該当しない
その他のデータ	:	なし

---

**10. 安定性及び反応性**

反応性	:	データなし
化学的安定性	:	データなし
危険有害反応可能性	:	データなし
避けるべき条件	:	データなし
混触危険物質	:	データなし
危険有害な分解生成物	:	データなし

---

## 11. 有害性情報

混合物としてのデータはない。試液2に含まれる過酸化水素の情報を記載する。

### 急性毒性

- (1):
- ・急性毒性(経口): 本物質の70%溶液を用いたラットのLD50値として2件の報告がある。75 mg/kg (EU-RAR(2003)、ECETOC Special Report(1996))と、805 mg/kg(EU-RAR(2003)、DFGOTvol.26(2011)、ECETOC Special Report(1996))で、両者に大きな差がある。EU-RAR(2003)では、75 mg/kgの知見はAppendixの記載であり本文では引用されていない。
  - ・急性毒性(経皮): 本物質の90%溶液を用いたLD50値は2件の報告がある。ラットのLD50値は約3.5mL/kg (= 約5,000 mg/kg) (EU-RAR(2003))であり、ウサギのLD50値は、690 mg/kg (EU-RAR(2003)、DFGOTvol.26(2011)、ECETOC Special Report(1996))である。
  - ・急性毒性(吸入-蒸気): 本物質の蒸気を用いたラットのLC50値(4時間)として、2,000mg/m<sup>3</sup>(= 1,438 ppmV) (EU-RAR(2003)、DFGOTvol.26(2011)、ECETOC Special Report(1996))が報告されている。
  - ・急性毒性(吸入-粉塵、ミスト): 本物質の90%溶液のエアロゾルをマウスに、13,200 mg/m<sup>3</sup>を10分間ばく露(4時間換算値:0.55 mg/L)、11,800mg/m<sup>3</sup>を15分間ばく露(4時間換算値:0.74 mg/L)した結果、いずれも10匹中5匹死亡した((EU-RAR(2003)、ECETOC Special Report10(1996))との報告がある。さらにこの報告に基づいて、本物質の90%溶液エアロゾルでのマウスの2時間ばく露でのLC50値は920-2,000mg/m<sup>3</sup>(4時間換算値:0.46-1.00 mg/L) (DFGOTvol.26(2011))との報告がある。

### 皮膚腐食性/刺激性

- (1): 本物質のウサギの皮膚に対する3分間、1時間又は4時間の適用で、皮膚の全層におよぶ壊死、あるいは腐食性と記載されている(EU-RAR(2003)、ECETOC Special Report 10(1996))。さらに、本物質は皮膚腐食性物質であり、EU DSD分類において「C; R35」、EU CLP分類において「Skin Corr. 1AH314」に分類されている。

### 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

- (1): 本物質は皮膚腐食性物質である。動物で重度の刺激性を有し、腐食性物質であるとの記載(ECETOC JACC(1993)、EU-RAR(2003))がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データなし

生殖細胞変異原性 : データなし

### 発がん性

- (1): IARC(1999)でグループ3、ACGIH(7th, 2001)でA3と分類されている。ACGIH(7th, 2001)は、IARC(1999)によりレビューされた発がんデータに関して、本物質の発がん性には限定的な証拠が存在することからA3としている。

生殖毒性 : データなし

### 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

- (1): 動物(ラット、マウス)(EU-RAR(2003))及びヒト(ACGIH(7th, 2001))の吸入ばく露で、鼻、喉、気管への刺激性が報告されている。動物(ラット、マウス)では、いずれも0.34-0.43 mg/Lの用量範囲で、肺、気管の充血、肺水腫、肺気腫、肺うっ血の記載(EU-RAR(2003)、ECETOC Special Report 10(1996))がある。ヒトで頭痛、めまい、振戦、痙攣、意識喪失、失神、及び脳梗塞の記載(ACGIH(7th, 2001)、EU-RAR(2003))があるが、これらの知見は詳細な情報がない。

### 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

- (1): イヌ及びラットにおける本物質の蒸気の吸入試験で、0.005-0.01 mg/Lの濃度で肺に線維化病巣が散見され、無気肺領域と気腫領域の混在(イヌ)、鼻腔上皮に壊死及び炎症、喉頭に細胞浸潤(ラット)を認めたとの記述(EU-RAR(2003))、ヒトにおいても鼻、喉に刺激性を示し、最悪のケースでは肺水腫を生じるリスクがあるとの記述(ECETOC JACC(1993))がある。

誤えん有害性 : データなし

その他の情報 : データなし

---

## 12. 環境影響情報

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

生態毒性	(1): 甲殻類(ミジンコ)の48時間EC50=2.4mg/L 36)。水生生物に毒性。
残留性・分解性	(1): 水中で速やかに分解する。
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

製品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物	: スクラバーを具備した燃焼炉で少量ずつ燃焼する。あるいは大量の水で希釈して排水する。関連法規ならびに地方自治体の条例に従い廃棄する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。関連法規ならびに地方自治体の条例に従い廃棄する。

---

## 14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	: 非該当
品名(国連輸送名)	: 非該当
国連分類	: 非該当
容器等級	: 非該当
国内規制がある場合の規制情報	: 規制されていない
注意事項	: 輸送前に容器の破損、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。直射日光を避ける。

---

## 15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

労働安全衛生法	: ・危険物・酸化性の物(施行令別表第1第3号)【3の3 その他の無機過酸化物】 ・名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)【126 過酸化水素】 ・名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)【126 過酸化水素】
---------	---

---

## 16. その他の情報

特記事項なし。

---

この SDS は基本的な取扱いについて記述したもので安全保証を意図して作られたものではありません。また、危険・有害性の評価は現時点で入手できる資料、情報、データ等で作成しておりますが、全ての資料を網羅したわけではありませんので取扱いには十分注意して下さい。